

しらこばと 昭和63年8月2日第3種郵便物認可 令和3年1月1日発行(毎月1回1日発行)第442号



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

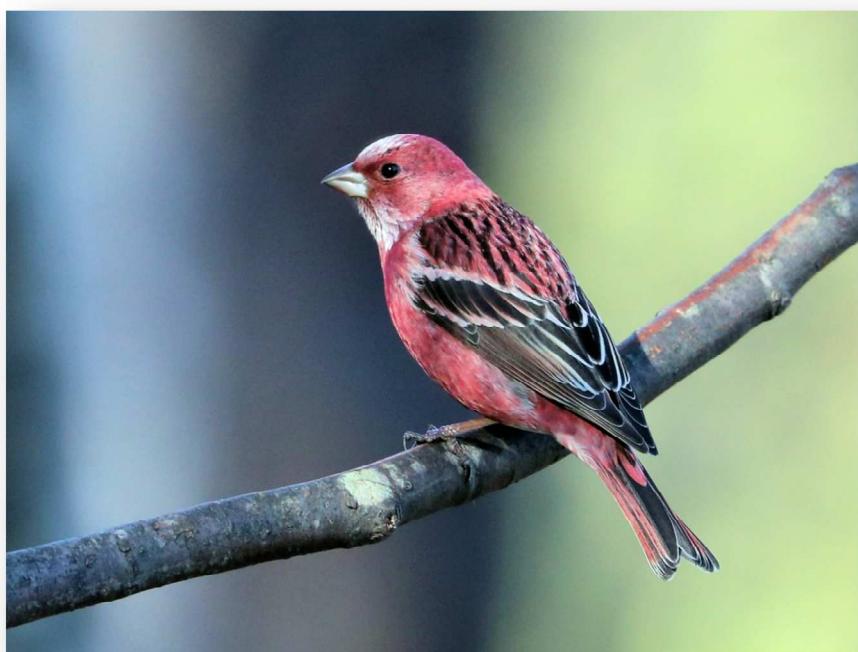
しらこばと

2021.1

No.442

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



「地鳴き」を聞き分けよう！

大井智弘（さいたま市）

はじめに

世は情報過多時代。ネット上では何処そこに珍鳥、迷鳥の〇〇がいた、見た、撮った。それもいい。しかしこんな時代だからこそ足元を見つめなおして、鳥の気持ちが十倍返しでわかつてくる鳴き声に耳を傾けてみたい。

しかし、鳴き声を紙面上に表現するのはなかなか難しい、そこでスマートフォンを使って日本野鳥の会埼玉のホームページにある野鳥の鳴き声（筆者録音）を聞いてもらう試みを思いついた。今回は秋冬期に観察できるヒタキ科の「地鳴き」の特徴や意味を中心にまとめたものである。

※ 鳴き声の再生は下記 URL 「野鳥の鳴き声を楽しもう」でも可能。

<http://wbsj-saitama.org/yacho/koe/call.html>

1 野鳥の鳴き声

一般に野鳥の鳴き声は、繁殖期に主として雄が発する比較的複雑な「さえずり（song）」と、日常的に聞かれる「地鳴き（call）」に分けられる。さえずりには他の雄に対するなわばり宣言や雌への求愛の意味がある。地鳴きは、さえずり以外の声で単純な音ではあるが、個体同士の合図や恐怖、威嚇、警戒、甘え、求愛など多様な意味がある。

2017年、鈴木俊貴（現：京都大学白眉センター特定助教）氏らの研究グループが、シジュウカラが鳴き声の組み合せでコミュニケーションを取っていることを解明し注目を集めた。ここではシジュウカラのさえずりと地鳴きを紹介しておく。

- ・下左：シジュウカラ【さえずり】
「ツビ、ツビ」「ツツビ、ツツビ」
- ・下右：シジュウカラ【地鳴き】
「ツッピン、ジュクジュク」



2 ヒタキという名前の由来

今回取り上げる鳥の名前に付けられているヒタキという名前は、ジョウビタキの地鳴きに由来する。10月下旬頃から民家の屋根やTVアンテナの高い所から聞こえてくるあの「ヒツ、ヒイ、ヒツ、カツ、カツ」という声である。昔の人たちは、この声を火打石を打ち合わせる音にたとえて「火叩き」「火焚き鳥」と呼び、転じて「ヒタキ」となったという。

3 地鳴きの音と意味

◎ジョウビタキ



ジョウビタキは市街地や農耕地、都市公園でも観察でき、枝や杭などにとまるときヨコンとお辞儀をするような動作をする。冬の間単独で生活するので、地鳴きはなわばり宣言の意味合いが強い。また警戒する時もこの鳴き方をする。近年、少し標高の高い地方で繁殖確認が報告されている。今後はさえずりを聞く機会が増えるかもしれない。

・下左【地鳴き①】

「ヒツ、ヒイ、ヒツ、カツ、カツ」

・下右【地鳴き②】

「ヒツカカ」「ククク」



◎キビタキ



キビタキは夏鳥として全国の山地から丘陵地で見られ、4月下旬から5月には都市公園の樹林でもよくさえずる。また5月頃の地鳴きは雄同士の争いの場面で聞かれることが多い。9月から10月東南アジアへ渡る際、平野部でもミズキの実などを採食する姿がよく見られる。

さいたま市の芝川第一調節池でも昨年10月下旬「ヒッ、ヒッ」という警戒音のような地鳴きが聞こえて来た。一瞬ジョウビタキかと思ったが、声の主はキビタキの雌であった。地鳴きの特徴は、ジョウビタキよりもテンポ

が速く、「クルルルッ」という音が入ることが多いので識別しやすい。

・右【地鳴き】
「ヒイ、ヒイ、クルルルッ」「クク、グル」



るので市街地周辺の平地林や郊外の公園でも観察できる。ジョウビタキのように明るく開けた環境にはあまり出てこないので観察できる機会は限られる。

しかし、冬場でも地鳴きを頼りに探せば樹木の枝から枝へと移動するところや、柵や杭から地面に降りて食べ物を探す姿が見られる。地鳴きの特徴は、ジョウビタキによく似た「ヒッ、ヒッ」という声なので、地鳴きだけでの識別はたいへん難しい。この冬、瑠璃色のルリビタキを地鳴きの音を手がかりにぜひ見つけてもらいたい。

- ・右【地鳴き】
「ヒイ、ヒイ、ククク」



4 鳴き声に耳を傾ける

夏の終わり、栃木県奥鬼怒湿原へ向かう山道で、数羽のルリビタキの威嚇のような「ガッ、ガッ」という低い声の地鳴きが聞こえて来た。うかつにも近づき過ぎた私に「何しに来たあ、出て行け」と言っているかのようだった。

バードウォッチングを始めた頃はもっとたくさんの鳥が見たい、珍しい鳥の写真が撮りたいという気持ちが先走っていたが、鳥の鳴き声に耳を傾けるようになって、今の声は警戒している、いや求愛かなと鳥の気持ちまで知りたいという興味が湧いてきた。いまはそれで十分に楽しい。2021年も鳴き声の世界にどっぷりとハマっていこうと思っている。

◎ルリビタキ



留鳥のルリビタキは、亜高山帯の樹林で繁殖をして秋冬になると暖地を求めて下りてくる

<参考文献>

『BIRDER 2017年4月号』シジュウカラの単語と文法 鈴木俊貴 文一総合出版

『バードウォッチング入門』浜口哲一(著)文一総合出版

『山渓名前図鑑 野鳥の名前』(解説)安部直哉(写真)叶内拓哉 山と渓谷社

『日本の野鳥図鑑』松田道生(著) ナツメ社

『日本の野鳥 さえずり・地鳴き図鑑』(監修)植田睦之 メイツ出版

『歌う鳥のキモチ』石塚徹(著) 山と渓谷社

クロガモの食性

藤原寛治(さいたま市)

4月6日、大洗漁港に行ったときのこと。いろいろな海鳥の中に2羽のクロガモ♂がいて、興味深い行動を観察したので報告したいと思う。

クロガモは2羽一緒に行動し、時々潜りながら、岸壁に近づいたり、沖の方に行ったりを繰り返して湾内を泳いでいた。

潜っていた1羽が浮き上がってきたとき、何か大きなものを咥えていた(下写真)。角度が悪くてよくわからず、取り敢えずシャッターを連射。クロガモは浮き上がってから4~5秒で飲み込んでしまった。

後で撮った写真を確認すると海底から大きな2枚貝を捕ってきて、なんとそれを丸呑みしていた。まさか大きな貝を丸呑みするとは思っていなかつたのでビックリ！！

調べてみると、スズガモやクロガモなどの潜水ガモは強力な砂嚢を持っていて、貝を丸呑みして消化してしまうということだ。

これからスズガモやクロガモを見る楽しみが増えたような気がする。



ホーン ホーン ホーン ホーン…

石川敏男(春日部市)

6月1日、曇り空のもと農道をウォーキング中に、東の田んぼの方から「ホーン ホーン ホーン ホーン・・・」という声が聞こえてきた。午後5時7分頃だった。脇の農道に入り、田植え後の田んぼを探すと稲株の間に佇むタマシギ♀1羽を発見した。しばらくして、株間を行き来したり、羽繕いしたり、「ホーン ホーン・・・」と鳴いたりした。♂の姿は見なかつた。

明けましておめでとうございます

日本野鳥の会埼玉 代表 山部直喜

昨年は、自由参加の探鳥会ができない、一堂に会しての役員会ができない、そんな年でした。

しかし、そのような中、新しい年を迎えることができたのは、当会を応援し続けてくださった会員の皆様、そして、通常の組織活動を支え続けてくださった各部と委員会の皆様のおかげと確信しています。ありがとうございます。

2021年、すぐには新型コロナの終息は望めません。ならば、今年の干支の丑にちなみ、粘り強く、堅実に焦ることなく、一步一步確実に仕事をこなしていくことが最善です。策は、『しらこばと』2020年10月号の特集が大いに参考になります。私は、12月から始まっている冬季「県内野鳥分布調査」と、手元に眠っている夏季の調査結果をまとめます。

皆様におかれましては、新しい年が佳き年でありますようお祈りいたします。

6月9日夕方、ウォーキング中、「ホーン ホーン ホーン…」の声が聞こえた。午後5時17分、西部浄水場南方の、6月1日にいた場所より北へ約600m離れた水田辺り。稲の株間を一つ一つ見ていくと、タマシギの♀1羽を発見。♂はいないかと、さらに探した結果、♀1羽にペアの1組。なんと一枚の田んぼに単独の♀2羽、♂1羽を従えた？♀1羽。都合4羽もいた!! こんなことは初めて。

6月10日朝、前日と同じ田んぼに、単独行動の♀1羽、ペア1組の計3羽を確認。この日の夕方にも同じ田んぼで3羽を確認。午前と同じ個体だろう。

6月12日午前10時21分、6月10日と同じ田んぼに♀1羽を確認。以後、ほぼ毎日、足を運んでいるが、姿を確認していない。声も聴いていない。稲株は大きくなり、株間は見にくくなってしまったので見つけるのは困難。♂が雛を連れているところを期待するしかなさそうだ。



蓮田市笠山 ◇4月27日、水田上空にムナグロ5が飛来したが、降りずに飛び去った(鈴木紀雄)。

草加市柿木町 そうか公園 ◇4月28日、センダイムシクイの轉り、キビタキ1。4月29日、アオバト1、オオルリ1。5月15日、サンコウチョウ♂1。5月22日、ホトトギス1、轉り(長野時彦)。◇4月29日、アオバト♂1、サンショウクイ♂1♀1、センダイムシクイ♂2、オオルリ♂1、キビタキ♂4、クロジ2。今日は過去最高の大当たりだった。アオバトは早朝、よく鳴いていたが新緑の中で見付けるのは大変だった。5月5日、クロツグミ♂1、コルリ♂1(下写真)。コルリ、クロツグミは池北側の林で観察した。コルリの記録写真を撮影するのに3時間かかった。そして見られたのは数秒、画像数カットのみだった。5月6日、アオバト♂1、サンショウクイ1、クロツグミ♂1、エゾムシクイ♂1、キビタキ♂4♀1、オオルリ♀1、コサメビタキ、クロジ♀1。5月24日、ホトトギス♂1(鈴木功)。



上尾市地頭方～平方領領家 ◇4月29日、シメ、ツグミ、スズメ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツバメ、ムクドリ、ヒヨドリ、モズ、カワセミ、アオサギ、ダイサギ2、キジ、キジバト、エナガ、オナガ、カルガモ、カワラヒワ、ホオジロ、コチドリ5、コジュケイ、ヒバリ、ツミ、コグラ、オオヨシキリ、ウグイス、ヒメアマツバメ、ハマシギ2など。5

月24日、スズメ、メジロ、ムクドリ、キジ、キジバト♂2、♀2、コジュケイ4、ガビチョウ、キビタキ、シジュウカラ、カワラヒワ、ホオジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、オナガ、オオヨシキリ、アオサギ、カルガモ、チョウゲンボウ、ツバメ、イワツバメ、コチドリ7、ヒバリ、コグラ。6月20日、キジ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、メジロ、モズ、ガビチョウ、オナガ、コジュケイ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワセミ3、アオサギ成鳥1、幼鳥4、ゴイサギ成鳥1、幼鳥2、ツミ。「チー ヒーイ ヒヨ」と声が聞こえた。トラツグミか? コグラ、キビタキ、ウグイス、カワラヒワ、ヒバリ、カルガモ成鳥1、幼鳥12、ホオジロ、シメ、コチドリ、ダイサギ2(村越百合子)。

さいたま市岩槻区南平野3丁目 ◇4月29日、元荒川の岩槻橋たもとの桜の木に飛来するコムクドリ15を信号待ちの車中より観察(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区横根 ◇4月30日、ムナグロ12、コチドリ1、イソシギ1。5月7日、ムナグロ28。5月8日、ムナグロ23、キヨウジョシギ1、タシギ2(鈴木紀雄)。

所沢市荒幡 ◇5月1日、午前10時、オオヨシキリ、竹藪の後ろからさえずりが良く聞こえた(小林茂・ますみ)。

川越市伊佐沼公園 ◇5月1日、サンショウクイ1、オオルリ♂2、キビタキ♂1。サンショウクイは上空通過のみ。5月7日、キビタキ♂2♀1。5月11日、エゾムシクイ1。5月22日、オオムシクイ2。オオムシクイは、よく轉っていた。5月25日、メボソムシクイ1、小さな声で轉っていた。26日にも観察できた。6月3日、オオムシクイ1、よく轉っていた(鈴木功)。

桶川市後谷調整池横の赤堀川 ◇5月3日 午前5時30分、オオヨシキリ1、今季初音(小貫正徳)。

さいたま市桜区在家 ◇5月4日、田んぼでムナグロ42、キアシシギ3、ハマシギ夏羽1(大塚純子)。

蓮田市貝塚 ◇5月7日、ムナグロが二つの

群れで50羽土。本日がここでの初認。他にコサギ、ダイサギ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイなど（関口明宏）。

幸手市惣新田 ◇5月7日午前11時30分、ムナグロ2、今季初認（小貫正徳・とみ子）。

さいたま市大宮区宮町 (53396590) ◇5月

8日前7時頃、東光寺内かんのんホールの屋上でイソヒヨドリ♂1。愛犬と散歩をしていると、何処からか聞いたことのある、でもこの辺では聞かない美しいさえずり。あたりを見回すと、屋上で囀っている♂を見付けた。最近増えているようだが、こんな所にも（浅見徹）。

越谷市平方 ◇5月12日午後4時30分頃、平方公園西側の休耕田でタマシギの声を20分以上聞いた。次の日も同じ時間帯に出かけ探したが、声だけで姿は確認できなかった。タマシギは意外と身の回りにいるのではないかと思った（山部直喜）。

草加市柿木町 ◇5月11日、チュウサギ1。

5月12日、ムナグロ11（長野時彦）。◇5月31日、ムナグロ1。6月27日、今日、柿木田んぼでコアジサシのコロニーを確認した。コアジサシ42（抱卵個体17）。先週末は大きな水溜りだったが、今日は水もはけていてコアジサシのコロニーがあつて驚いた！工事前だったので、少しだけ入らせてもらい、道路よりに抱卵している個体を撮影させてもらう。コアジサシ、何とか繁殖させてあげたいところです（鈴木功）。

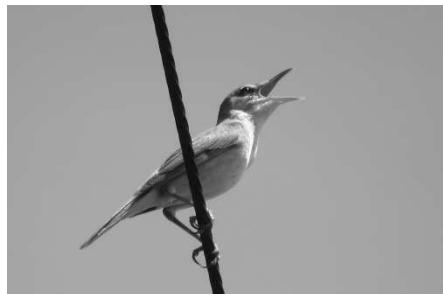
蓮田市 黒浜沼 ◇5月11日、上沼上空を飛び回るコアジサシ1。ツバメ、オオヨシキリなども元気（鈴木紀雄）。

上尾市地頭方 ◇5月12日朝、早い時間から鳥のさえずりが聞こえ、目が覚めてしまう。耳をすまして聴いてみると、カッコウの声。今年も近くの神社に来てくれた（村越百合子）。

桶川市若宮 ◇5月13日午前7時50分～8時20分、カッコウ初鳴き。大きな声で「カッコウ カッコウ」と自宅ベランダから長い間聞こえてきた。今年も忘れずにやって来てくれた。ありがとう。昨年は5月23日、一昨年は今日と同じ5月13日でした（立岩

恒久）。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇5月14日、東沼のヨシ原でオオヨシキリが賑やかだ。桜並木でシジュウカラも存在を主張していた。5月21日、カワセミが杭からジャンプして魚を狙った。5月22日、ホトトギスが鳴いた。此処で初めて聞く声だ。5月25日、近くの桜木に営巣したハシボソガラスの雛が巣だったようだ。急に静かになった。5月30日、ウシガエルの声が低く太く響いてきた。おう！まだ居たのか。6月7日、電線やTVアンテナにエナガ15十。成鳥と幼鳥が混じって賑やかだった。6月14日、ヨシ原近くの電線でオオヨシキリが数日前から囀っている。電線をソングポストにしたようだ（下写真）。6月23日、エナガ35土が電線から電線に移って、賑やかだ。群れの中にシジュウカラが数羽混じっていたようだ。このごろ、オオヨシキリが鳴かなくなってしまった。6月29日、シジュウカラの成鳥と巣立ち雛の群れに、メジロが加わった混群が常緑樹の中で忙しそうに餌を捕っていた（長嶋宏之）。



鴻巣市大間一丁目 ◇5月14日午後9時頃、ホトトギスの声が2声、空から降ってきた。今季初認（榎本秀和）。

所沢市けやき台1丁目 ◇5月15日早朝、マンション屋上のアンテナにカッコウ1。「カッコウ」という特徴的な鳴き方は昨年と同じ個体か。昨年は5月26日が当地の初見だった（石光章）。

所沢市山口 菩提樹池 ◇5月15日午前10時30分、キビタキが3カ所で確認できた（小林茂・ますみ）。

久喜市菖蒲町下柏間 ◇5月15日午後12時15

分、ホトトギスの初音。午前中 カッコウを探しにさきたま古墳公園に出かけるが空振り。自宅に帰ったとたん北東方向の屋敷林から声が聞こえる（小貫正徳・とみ子）。

所沢市山口 ◇5月17日午前8時、ホトトギスの声を自宅で初認（小林 茂・ますみ）。

さいたま市西区 三橋総合公園付近 ◇5月

17日、カルガモ、カツブリ、キジバト、チョウゲンボウ、ツバメ、イワツバメ、ムクドリ、スズメなど（嶋田富夫）。

さいたま市大宮区 大宮公園 ◇5月17日、

キンクロハジロ、カツブリ、ツミ、オオタカ、オナガ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメなど（嶋田富夫）。

さいたま市岩槻区末田 ◇5月18日、水田の

畔にキアシシギ12、チュウシャクシギ1（鈴木紀雄）。

川越市 伊佐沼 ◇5月18日、クロハラアジ

サシ夏羽1。クロハラアジサシは午前6時頃、北側の杭にとまっていた。夕方、6時頃にも確認できた。5月19日、アジサシ夏羽1。5月20日、ショウドウツバメ4、ツバメ30+の群れに混じっていた。5月27日、ヨシゴイ1。6月11日～13日、クロハラアジサシ夏羽1。6月15日、クロハラアジサシ夏羽1、ヨシゴイ4。6月16日、ハジロクロハラアジサシ夏羽1（下写真）、コアジサシ15+と杭にとまり並んだ（鈴木 功）。 ◇7月5日、クロハラアジサシ夏羽1、飛び込むと思った瞬間、水面に嘴だけ入れ魚をキャッチ。ヨシゴイ♂がヨシの上に出て犬のような声で鳴いていた（藤原寛治）



さいたま市西区 指扇北小学校～ゴルフ場周辺 ◇5月21日、スズメ、シジュウカラ、メ

ジロ、カワラヒワ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キジ、オオヨシキリ、オナガ、ホオジロ、コジュケイ、カッコウ、ドバト、ムクドリ、ガビチョウ、ウグイス、ヒバリ、上空にカルガモなど。キビタキがあちこちに鳴いて、ホトトギスの声も周辺では今年初確認できた（村越百合子）。

さいたま市南区の笛目川 ◇5月24日、瓶尻橋下流、道路を挟んだ埼京線高架裏の下壁にイワツバメの巣5、親鳥が出入りしていた（陶山和良）。

さいたま市西区 宝来運動場周辺の田園 ◇

5月24日、スズメ、メジロ、ムクドリ、キジ、カワラヒワ、カルガモ、オオヨシキリ、セッカ、コジュケイ、キビタキ、ホオジロ、アオサギ3、ダイサギ、アマサギ1、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、コチドリ、コゲラ、アカゲラ、シジュウカラ、セグロセキレイ、キセキレイなど（村越百合子）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇5月25

日、旧曙ブレーキテストコース入り口付近の林でオオムシクイ2。割と日が高くても囀り、時々「ギッ、ギッ」の二声地鳴きが入るので、それと確認できた。5月27日午前11時45分頃、旧曙ブレーキテストコース南側の河畔林にてエナガ、シジュウカラに混じって枝移りするムシクイの仲間1羽を認めた。しばらくして林の奥から囀りと地鳴きを聞き、25日に聞いた声と同じだったのでオオムシクイと確認できた。午前11時頃、林内にサンコウチョウ♀1が横枝にとまったが、すぐに枝移りして林内に消えてしまった（石川敏男）。 ◇5月28日、モズ一家が出現。巣立ちビナ4がゾロゾロ。シジュウカラも数羽の巣立ちビナと動いていた（鈴木紀雄）。

渡良瀬遊水地 ◇5月26日、ヨシ原でコヨシキリ、オオヨシキリ、セッカ、オオセッカの声と姿。遠くからカッコウの声。チョウゲンボウ♂1。

越谷市東町 ◇5月29日、中川土手でガビチョウ1（長野時彦）。

さいたま市桜区 秋ヶ瀬公園 ◇5月31日、ピクニックの森でホトトギス1、上空を鳴

きながら、北方向へ。何かを追いかけるような勢いで飛ぶ姿を目撃する。山久保土手でオオヨシキリ、キジ、アオサギ（陶山和良）。

上尾市平方 ミツ又沼ビオトープ ◇5月31

日、ホオジロ、ウグイス、コジュケイ、シジュウカラ、キビタキ、コグラ、コガラ、セッカ、ヒバリ、キジ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ヒヨドリ、アカゲラ、カルガモ、アオジ、ツバメ、カワラヒワ、エナガ、カツコウ、メジロ、カケス、ノスリ、オオタカ、クロジ、コチドリ4、ハクセキレイ、シメ、モズ、カワセミ2、バン、ホトギス、オオヨシキリなど。ヨシ原や木々にとまり、こんなに沢山のさえずりを聞くことができ驚きました（村越百合子）。

さいたま市岩槻区横根 ◇6月3日、水田で アマサギ1（鈴木紀雄）。

さいたま市西区三条町 ◇6月4日、キジ、

カルガモ、キジバト、ゴイサギ、ダイサギ、タマシギ♂成鳥1、幼鳥4（下写真）、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ（嶋田富夫）。



狭山市広瀬 ◇6月9日、入間川河川敷でサ サゴイ1、ヒメアマツバメ3（鈴木功）。

桶川市五丁台 ◇6月15日午前5時15分、田 植え後すぐの水田でカルガモ親子初認。成 鳥1、幼鳥8（小貫正徳・とみ子）。

上尾市地頭方～さいたま市北区奈良町 三貫 清水緑地 ◇6月15日、スズメ、メジロ、オ ナガ、ムクドリ、ハクセキレイ、セグロセ キレイ、ヒヨドリ、カワラヒワ、ヒバリ、 ツバメなど。上尾市堤崎付近で幼稚園の裏 庭でコチドリ5、ツミ、ホオジロ、アオジ。

大宮花の丘農林公苑付近でエナガ成鳥2、幼鳥7がメタセコイヤの木にとまる。ヤマガラ2、コグラ、アカゲラ、ウグイス。**戸崎公園付近**でカルガモ成鳥1、幼鳥8、シジュウカラ、キジ、キジバト、カケス、ドバト。**三貫清水緑地**のヨシ原にオオヨシキリ複数（村瀬百合子）。

久喜市高柳 十王橋付近 ◇6月17日、キジ、 キジバト、シラコバト、ゴイサギ、アオサ ギ、ダイサギ、ハシブトガラス、ツバメ、 ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ（嶋田富夫）。

吉見町 吉見総合運動公園 ◇6月18日、 鉄塔にハヤブサ成鳥2、モズ成鳥1、若鳥 5（繁殖したようだ）、ムクドリ巣立ち雛 多数、ヒバリ多数、オオヨシキリ多数。他 にキジ♂のみ5、カルガモ1、キジバト8、 カワウ2、アオサギ、ダイサギ、チュウサ ギ、トビ、ツバメ、ウグイス、セッカ、ス ズメ、カワラヒワなど（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区高曾根～野孫 ◇6月20日、 水田の中を観察している人がいたので教え てもらったのはタマシギ♂1♀1。繁殖す るか。別地点でもタマシギの声あり（鈴木 紀雄）。◇5月5日、アオサギ成鳥3、幼鳥 2。チュウシャクシギ3、田圃でザリガニ をくわえて丸呑み（藤原寛治）。

春日部市武里中野、増田新田 ◇6月27日午 前9時47分、曇り空のいづこから、「ピ ーヒヨロロロ」の一聲。見上げるとトビ1 が反時計回りに旋回して、谷原親水広場上 空を西方へ飛び去った。10時28分、再びト ビ1が南西より現れ、自宅上空で旋回を繰 り返した後、ウイングハット方向へ遠ざか った。同じ個体と思われる（石川敏男）。

さいたま市西区島根 ◇6月28日、ほぼ全身 灰褐色のハクセキレイ幼鳥1が親鳥の所へ 飛んで行っては餌をねだる。親鳥はこれを かわしながらも時々鳴き何かを与えていた (大塚純子)。

表紙の写真

スズメ目アトリ科オオマシコ属オオマシコ

昨年1月4日、赤すぎる程赤い野鳥に、秩
父近郊で逢えました。 佐藤久志（狭山市）



2月も、事前予約制で探鳥会を計画 しています

普及部

2月の探鳥会も、すべて事前予約制で準備を進めています。事前予約制にして参加人数を絞ることにより、ソーシャルディスタンスを維持しやすくするなどして、感染のリスクを極力抑えようという趣旨です。したがって、予約なしでの当日参加はできませんので、ご了承ください。各探鳥会に共通の開催要項は以下のとおりです。ご協力、よろしくお願いいたします。

1. 日本野鳥の会会員限定の先着順（ただし、埼玉会員優先）とする。
2. 申し込み方法は、コロナ感染状況に（メール等で）迅速に対応するため、当会のホームページからの申し込みとする（開催日の4週間前から、ホームページで受け付けを開始する予定です）。
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」（最新版が、当会ホームページの「探鳥会」>「今月の探鳥会」から閲覧できます）に沿って実施する。
4. 参加の必須条件として、各自でマスクまたはフェイスシールドなどの飛沫防止策を講じる（ご用意のない方は参加をご遠慮ください）。
5. 筆記用具や観察用具（双眼鏡等）は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から感染者が出た場合には、参加者名簿を保健所に提出する。
7. 新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、開催を中止する（中止する場合は、申込者全員へメールで連絡します）。

埼玉 Young 探鳥会 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地

期日：1月30日（土）

集合：【電車の方】13時、東武日光線 板倉東洋大前駅東口。【車の方】13時30分、渡良瀬遊水地 想い出橋駐車場

解散：17時ころ、渡良瀬遊水地内（解散後、駅まで先導します）。

定員：20名

担当：廣田、石塚（敬）、石塚（真）、市原、大林、河邊、島崎、高崎、村上（将）

見どころ：恒例の「チュウヒのねぐら入り観察会」です。ねぐら入りポイントまで冬の小鳥たちと湖の水鳥を探し、夕方からはチュウヒのねぐら入りを観察します。

ご注意：①極寒期なので、寒さ対策をしっかりお願いします。②解散後は暗くなっていますので懐中電灯等をご持参ください。

さいたま市・大宮第二公園探鳥会

期日：2月3日（水）

集合：午前9時、大宮第二公園管理事務所前。

交通：東武野田線 大宮公園駅から徒歩約20分。大宮第二公園駐車場が利用可能。

解散：正午前に集合地で。

定員：20名

共催：大宮第二公園管理事務所

担当：浅見（徹）、浅見（健）、小林（み）、近藤、千葉

見どころ：カモなどの冬鳥を中心にのんびり探鳥します。大宮第二公園～芝川～大宮第三公園～大宮第二公園と巡ります。昨年11月に続く今季第2弾です。冬鳥が増えたかな。シロハラは？ 去年のあの子は？

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月7日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 8:38発で「自然観察公園前」下車。

解散：正午前に集合地で。

定員：20名

担当：吉原（俊）、相原（修）、秋葉、浅見（徹）、近藤、千葉、吉原（早）

見どころ：冬鳥たちも人慣れしてきたころ。
間近にアオジやカシラダカ。猛禽は空高く。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：2月11日（木・祝）

集合：午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:12→久喜 8:26
→花崎 8:34。またはJR宇都宮線大宮 7:53
→久喜 8:15で東武伊勢崎線乗り換え。

解散：正午前に集合地で。

定員：10名

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、相原（修）、植平、茂木

見どころ：ヨシ原と自然観察園と園内の池を
巡り、主にヒドリガモの成幼、雌雄の識別
にチャレンジします。

注記：花崎駅からの引率は行いません。道順
が不明な方はご連絡ください。

さいたま市・秋葉の森総合公園探鳥会

期日：2月14日（日）

集合：午前9時30分 公園内管理棟付近

交通：西大宮駅バス乗り場から西大02「わくわくランド行き」8:58発で7分「秋葉入口」下車、又は、大宮駅西口⑧番乗り場から大62「リハビリセンター行き」8:50発で17分「秋葉入口」下車、徒歩約15分。

解散：11時30分 集合地で。

定員：20名

担当：近藤、石塚（敬）、今村、浅見（徹）、千葉、藤田

見どころ：一年ぶり、二度目の開催。昨年はルリビタキ・キクイタダキなど33種。自然保護ゾーンを中心にゆっくり散策。冬鳥たちを“気長に”待ちましょう。

帰りのバス：下車したバス停から11:57発。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月20日（土）

集合：午前7時50分、丸山公園南口入口付近。

交通：JR高崎線 上尾駅西口③番バス乗り場
から尾32西上尾第二団地経由リハビリセ
ンター行 7:26発で「丸山公園入口」下車、
徒歩約4分。

解散：11時頃、集合地付近。

定員：20名

担当：近藤、秋葉、浅見（健）、浅見（徹）、千葉、吉原（早）

見どころ：一年ぶりの開催。去年かいぼり中
だった大池はどうなったでしょう？今年
はアリスイには会える？鳥たちの春への
準備を観察しましょう。

注意：帰りは下車したバス停から12:49発。
お急ぎの場合は上尾第二団地からご乗車
ください。



アリスイ（編集部）

東京都・浮間公園探鳥会

期日：2月24日（水）

集合：午前10時、JR埼京線 浮間舟渡駅前。

解散：正午ころ、浮間公園。

定員：20名

担当：小林（み）、浅見（健）、石塚（敬）、今村、
藤田

見どころ：駅から近い浮間公園は、鳥との距
離も近い。水鳥の美しさをご堪能あれ！

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月27日（土）

集合：午前9時10分、岩槻文化公園の国道
16号側駐車場。

交通：東武アーバンパーク線岩槻駅東口から
朝日バス 8:43 発しらこばと水上公園行で
「村国入口」下車。バス停からご案内あり。

解散：正午ころ、集合地で。

定員：10名

担当：長野、鈴木（紀）、鈴木（庸）、長嶋

見どころ：トイレが完備された公園内や平坦
な元荒川沿いの道を歩いて冬鳥を観察。



行事報告

2月19日（水） 東京都板橋区 浮間公園

参加：45(会員40)名 天気：晴

オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ ホシハジロ
キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ
ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ バン
オオバン ユリカモメ カワセミ コゲラ ハヤ
ブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シ
ロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ アオジ
(33種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 参加者の
皆さんに＜テーマを持って鳥を見ていただく探鳥
会＞を試みた。①ユリカモメの群れの中から脚の
色が違う個体（若鳥）を探す。②ヒドリガモの中
からアメリカヒドリを探す。③ホシハジロを数え
て雄雌の比を出す。のんびり水に浮かぶカモ類は、
ただ何となく見ていると退屈してしまいがちだが、
テーマを持って積極的に探したり数えたりするこ
とにより、ひと味違う観察ができたのではないか
と思う。皆さんの感想を聞いてみたかった。

(小林みどり)

2月24日（月、祝） 本庄市 坂東大橋

参加：32(会員26)名 天気：快晴

オカヨシガモ ハシビロガモ コガモ キンクロ
ハジロ ホオジロガモ カイツブリ カンムリカ
イツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサ
ギ オオバン ミサゴ トビ ノスリ チョウゲ
ンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ム
クドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロ
セキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ
(32種) (番外：ドバト) スタートと一緒にいき
なりチョウゲンボウが現れ、見送ってくれた。ヒ
バリがのどかに轟る土手を、モズ、シメ、ホオジ
ロなどを見ながら進む。河原はヨシが流され砂利
で埋まったため小鳥がいないが、ノスリがゆつた
りと飛翔してくれた。予想外にカモが少なく、皆
で見られたのは3種だけだったが、カンムリカイ

ツブリとミサゴがカバーしてくれた。出現鳥は少
なかったが、穏やかな快晴に恵まれ気持ちの良い
探鳥会になった。
(新井 巍)

新型コロナウィルスの感染拡大により、2020年に計画されていた以下の行事は中止されました。

- 2月29日（土） 行田市 さきたま古墳公園
- 3月1日（日） 寄居町 玉淀河原
- 3月7日（土） さいたま市 見沼自然公園
- 3月7日（土） 所沢市 狹山湖
- 3月7日（土） 千葉県銚子市 銚子漁港
- 3月8日（日） 熊谷市 大麻生
- 3月8日（日） 蓼田市 黒浜沼
- 3月8日（日） さいたま市 大宮公園～市民の森
- 3月13-14日（金・土） 東京都 八丈島航路
- 3月14日（土） 栃木県 日光東照宮裏山
- 3月15日（日） さいたま市 三室地区
- 3月18日（水） 羽生市 羽生水郷公園
- 3月19-20日（木・金） 東京都 八丈島航路 Young
- 3月20日（金祝） 松伏町 松伏記念公園
- 3月21日（土） 秩父市 秩父ミューズパーク
- 3月21日（土） 『しらこばと』袋づめの会
- 3月22日（日） 狹山市 入間川
- 3月29日（日） 加須市 渡良瀬遊水地
- 4月5日（日） 北本市 石戸宿
- 4月5日（日） さいたま市 民家園周辺
- 4月5日（日） 長瀬町 長瀬
- 4月8日（水） 東京都 高尾山植物観察会
- 4月11日（土） 室内講座「羽を知る会」Young
- 4月12日（日） 熊谷市 大麻生
- 4月12日（日） 千葉県野田市 こうのとりの里
- 4月18日（土） 東京都 葛西臨海公園
- 4月18日（土） 『しらこばと』袋づめの会
- 4月19日（日） さいたま市 三室地区
- 4月19日（日） 春日部市 内牧公園
- 4月19日（日） さいたま市 秋ヶ瀬公園 Young
- 4月22日（水） さいたま市 秋ヶ瀬公園
- 4月25日（土） 栃木県 小倉山森林公園
- 4月26日（日） 北本市 石戸宿（臨時）
- 4月27日（月） さいたま市 大宮第二公園
- 4月29日（水祝） シギ・チドリ類県内調査
- 5月3日（日祝） 幸手市 宇和田公園
- 5月5日（火祝） 千葉県 谷津干潟
- 5月9日（土） 長野県 中軽井沢 Ladies'
- 5月9-10日（土-日） 秩父市 中津川



●12月の探鳥会を中止しました

11月中旬以降のコロナウイルス感染再拡大を受け、同月21日に長野普及部長が12月開催予定の探鳥会すべてを中止にしたい旨を代表及び副代表と相談し、中止を決定いたしました。即日当会公式サイトに中止の告知を掲載するとともに、参加申込者には担当メインリーダーから個別に連絡をしました。

●表紙の写真などお待ちしています

今月号表紙の写真は、昨年1月に撮影されたものです。1年経った今月号に掲載することができました。まさにぴったりの季節感と言えるでしょう。

前にも何度かご説明したことがあります
が、撮影した写真をすぐお送りいただいても、
掲載できるまでは2～3カ月のタイムラグ
が発生して、掲載を見送らざるを得ない場合
もあります。1年待っても、季節感が合う写
真を、掲載月の少し前にお送りいただければ、
ありがとうございます。

●会員数は

12月1日現在1,498人です。

●ごめんなさいコーナー

前月号2～3ページ特集「2020年秋 会員
から寄せられたタカとシギ・チドリの渡り情
報から」の3ページ末尾近く、<謝辞>の欄
「シギ・チドリ渡り情報」の中で、「野津博

毅様」は「野津弘毅様」の誤りでした。

活動報告

11月11日(水)、見沼・さぎ山交流ひろば運
営協議会主催、「私の好きな見沼たんぽ
2020」写真コンクール表彰式に出席(山部
直喜)。

11月16日(月)、『しらこばと』12月号入稿。
11月20日(金)、同12月号埼玉事務局発送分
納品。

11月21日(土)、12月号を『野鳥』誌と同封
発送しない会員向け袋詰め作業、さいたま
中央郵便局から発送(海老原教子、海老原
美夫、山部直喜)。

11月30日(月)～12月12日(土)、メール交
換による『しらこばと』2021年1月号編
集・校正作業(相原修一、浅見徹、海老原
美夫、長嶋宏之、藤原寛治、森本國夫、山
口芳邦、山部直喜)。

12月1日(火)～3日(木)、メール交換による
役員会を開催。1月に1回、2月に7回、
3月に1回の探鳥会を開催する普及部
の議案を承認した。

編集後記

マイフィールドである柳瀬川沿いの田ん
ぼで、現在二つの工事が進行中。

一つは浦所街道と柳瀬川駅近くの富士見
橋へ田んぼを横切るショートカット道路、も
う一つはその下流の柳瀬川の堤防沿いに作
られる水害対策の水谷調節池。探鳥会コース
になっているので工事完了後はどうなるか
心配。(山口)

しらこばと 2021年1月号(第442号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26

番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断

転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社